

2014年の体操ニッポンを振り返って

(公財)日本体操協会 総務委員長 遠藤 幸一

「新体操」はトルコのイズミールにて9月22～28日、「体操競技」は中国の南寧にて10月3～12日、そして「トランポリン」はアメリカのデイトナビーチにて11月6～9日の期間、国際体操連盟が主催する世界選手権が開催された。その大会を振り返って、キーワードを探すと、「0.1の僅差で敗れた男子体操」「現地でのアクシデントに負けなかった女子体操」「メダルゼロが示す日本トランポリン」ということが私の頭の中をよぎる。今回、体操ニッポンを代表する選手たちを「キーワード」で振り返ってみたい。

0.1の僅差で敗れた男子体操

日本のライバルである中国で開催された世界選手権では、男子団体決勝において日本チームが0.1の僅差で敗れる銀メダルで終わった。0.1というのは、着地1歩動くか動かないという差。男子6種目各3選手が演技を行うので18演技あるが、そのどこか1か所でも着地の動いた選手が動かなかったら同点金メ

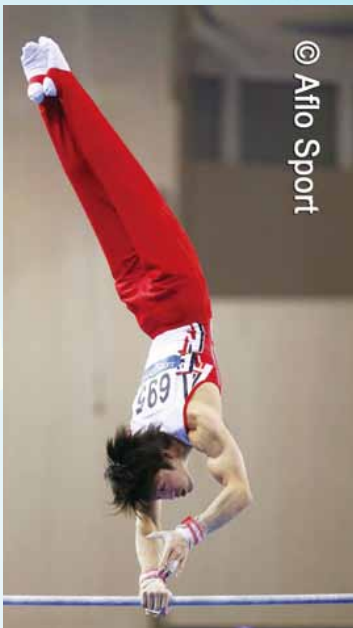


ダルになっていたことを考えると、その差はあってないようなものだ。分析によれば、中国と日本の難しさによる評価の差は2.8点中国が上回り、できればよくなるその差は日本が3.1点上回っていた。できればよかった日本が負けたことで、日本びいきの多くのファンが違和感を覚え、協会事務局に抗議の電話をかけてきたとのこと。現地でも、試合直後の選手たちの落胆ぶりは、本当に大きなものだった。しかし、翌日には、選手たちは前を向いていた。そのポジティブな姿勢に感銘を受けたし、0.1の大切さを学んだことで、チームはまた一回り成長した気がする。



現地でのアクシデントに負けなかった女子体操

現地で一人の女子選手が負傷し、会場を後にすることになった。成長著しい若手選手ただだけに非常に残念だった。しかし、急遽補欠だった選手を日本から呼び寄せ、本番数日前に合流。呼び寄せられた選手の戸惑い、緊張、責任、期待など、複雑な思いが伝わってきたが、選手たちはすでにその輪に加わっていたように受け入れ、見事、その大役を果たし、38か国中6位で予選を通過した。団体決勝では大過失もあり最下位の8位となったが、危機的な状況をチームで乗り越えた経験は、個々の選手の経験として今後に役立つものとなるだろう。



成果の表れ始めた新体操個人

現在、ロシアを拠点にした強化を進める新体操。2013年からはそれまでの団体の選手たちのみだった方針を、個人選手にまで広げて強化を進めている。団体では、2012年ロンドンオリンピック後に新しいチーム作りを始め、2013年において団体は予選を通過し、総合と種目別でそれぞれ8位以内を確保。2014年はミスにより種目別で1つ決勝進出を逃した。すでに8位入賞は常連化しつつあるだけに、今回はメダルを狙うための攻めた姿勢でのミスとなった。一方、個人は2013年に皆川夏穂選手36位と早川さくら選手40位でそれぞれ予選落ち



▲写真提供：Rimako Takeuchi

したが、2014年は早川選手16位(決勝18位)、皆川選手23位(決勝同)とそれぞれ決勝進出を果たした。個人選手のオリンピック出場が途絶えているだけに、今後の成長から目が離せない。

メダルゼロが示す日本トランポリン

トランポリンは2011年大会において個人国別対抗で優勝し、2013年に男子シンクロが優勝して、絶対王者の中国を乗り越えてきたが、2014年はメダルゼロ。日本チームを引っ張る上山容弘選手や伊藤正樹選手らの年齢を考えると、そろそろ若手の台頭が待たれる。一方、女子はエースの岸彩乃選手が今回予選落ちし、中野蘭菜選手(2014年ユースオリ



▲写真提供：JGA



▲写真提供：JGA

ピック2位)一人が準決勝へ進出。オリンピックへは個人競技しかなく、出場選手数も少ない狭き門だが、若手が育ちつつある。

以上、各種別ともに、それぞれ2014年に得たものは異なるが、お互いを意識しながら2016年リオデジャネイロ大会、そして2020年地元東京大会に向けてその足を止められない。引き続き、皆様の温かいご支援ご協力をお願いし、2014年の体操ニッポンの振り返りとしたい。

世界選手権における体操ニッポンの主な成績

●男子体操競技(金メダル1、銀メダル3、銅メダル2)

選手 内村航平、野々村笙吾、加藤凌平、田中佑典、白井健三、亀山耕平
個人総合 内村1位、田中3位
種目別 【ゆか】白井2位、加藤5位 【跳馬】白井4位
【平行棒】加藤3位、田中5位 【鉄棒】内村2位

●女子体操競技

選手 笹田夏実、寺本明日香、井上和佳奈、美濃部ゆう、村上茉菜、石倉あづみ(負傷した平岩優奈と交代)
個人総合 寺本18位、世田20位
種目別 【平均台】寺本4位

●新体操

団体 畠山愛理、杉本早裕吏、国井麻緒、熨斗谷さくら、横田葵子、松原梨恵
個人 【総合】8位 【ボール&リボン】7位
皆川夏穂、早川さくら、三上真穂
【予選】皆川116位、早川123位

●男子トランポリン

選手 【トランポリン】上山容弘、伊藤正樹、田崎勝史、加藤亮彦、島田諒太
【タンブリング】杉浦隼平、杉浦祥太郎
個人 【個人】伊藤4位、上山8位
【シンクロ】伊藤・上山組4位
【タンブリング:予選】杉浦隼25位、杉浦祥27位

●女子トランポリン

選手 岸彩乃、山田紗菜、宇山芽紅、中野蘭菜、山下はるな
個人 【個人準決勝】中野10位 【シンクロ】岸・山田組5位



内村選手(中央)と田中選手(右) 写真提供：Aflo Sport

